

1) 仕様

機械落径	25.60mm
機械厚ミ	3.95mm
テンプレ振動数	28,800回/時
自動巻 (手巻装置付)	
カレンダー (日・曜、曜文字和英切換、日・曜修正装置、瞬間日・曜送り)	
秒針規正装置	
微動緩急装置 (外部緩急装置付きのもの とついていないものがあります。)	

2) 特長

- 豊富な機能を有し、しかも薄型にまとめられています。
- 毎秒8振動の高振動メカニズムを採用しているため精度が優れています。
- 簡単な操作のリユーズ回転式日・曜早修正及び瞬間日・曜送り装置
- 好みによって使い分けられる曜文字の切換装置

3) 分解・組立




分解は、図の番号①～⑥の順序に分解してください。

組立は、図の番号⑥～①の順序に組み立ててください。




4) 注油

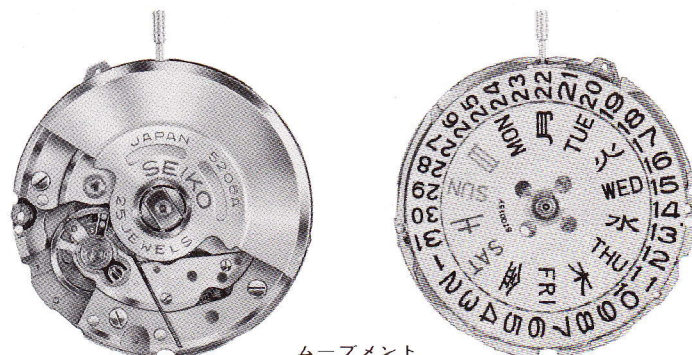
図中で、つぎの記号は油の種類、量、注油箇所を示します。

● 種類

-  メービスA
-  セイコーウォッチ油 S-4
-  セイコーウォッチ油 S-3

● 注油量

-  多めに
-  標準量
-  極く少量

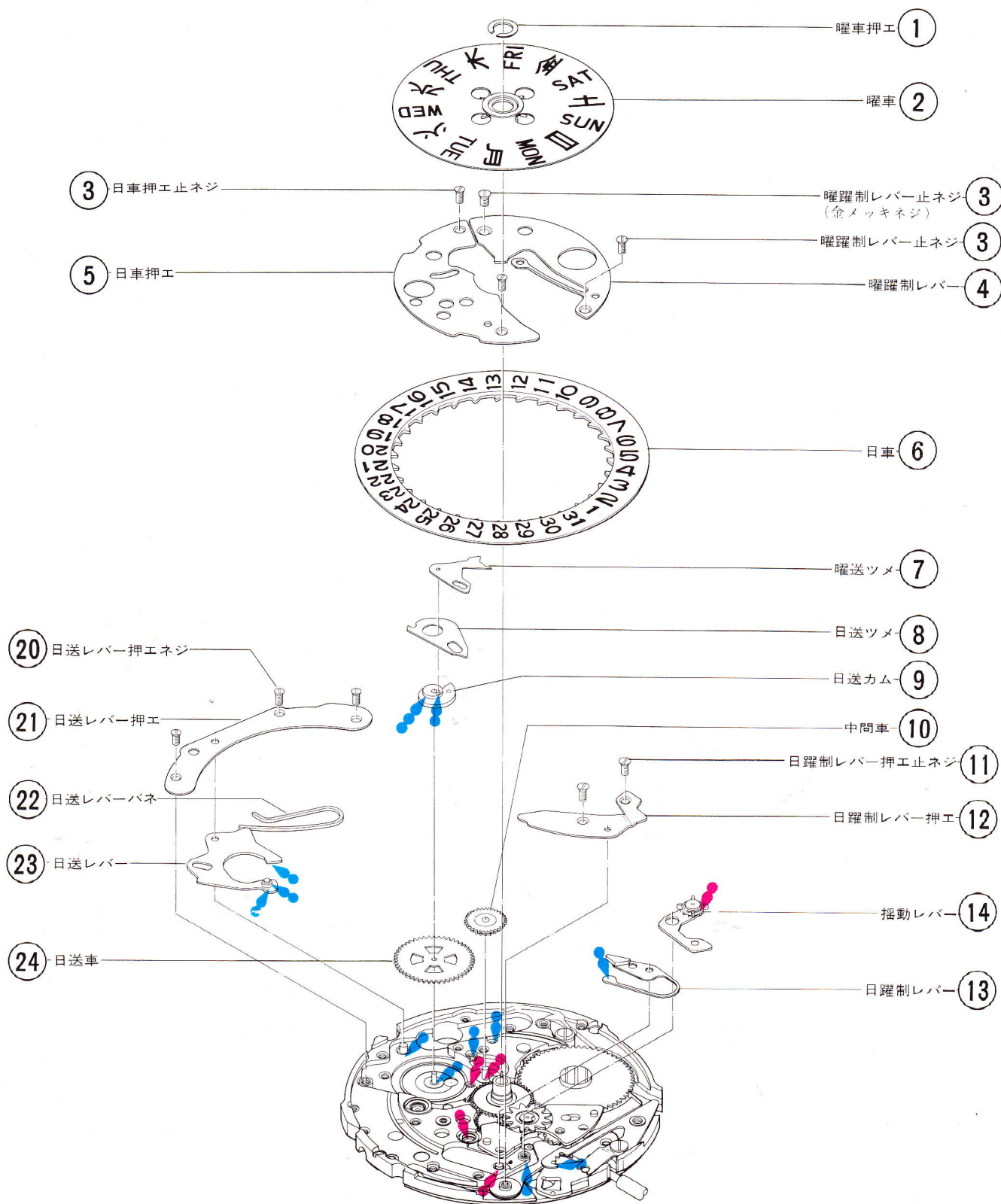


ムーブメント

5) 取扱上の注意

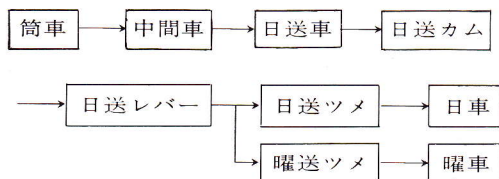
- ① 日付の修正は午前3時45分頃から午後9時頃までの間におこなってください。
曜日の修正、和英切換は午前7時頃から午後11時頃までの間におこなってください。これ以外の時には、日、曜日の修正装置は働きません。
- ② ゼンマイ巻きは、自動巻上げですがリユーズでも可能です。また日付を修正したときにもゼンマイは巻けます。
- ③ リユーズ
リユーズは3段切換式になっています。
リユーズ1段目 → ゼンマイ巻き
2段目 → 日付修正 (右回転)
ゼンマイ巻
曜日修正 (左回転)
3段目 → 針合わせ、秒針規正

5206A カレンダー機構



6) カレンダー機構

6)-1 瞬間、日・曜送り装置 (図-1. 2)



24時間で1回転する日送車の上に、日送カム、その上に日車を送る日送ツメ、さらに曜送ツメが組まれています。日送カムには絶えず、日送レバーがバネによって押しつけられています。日送車が回ると、日送カムも同時に回され、カムに接触している日送レバーは、渦巻状のカムの外周を昇ってゆき、同時に日送レバーバネがたわめられて、日送レバーがカムの先端を通り越すときに、日送レバーバネの力によって、カムと日送レバーが回転されます。

このとき、カムと日送レバーは日送ツメと曜送ツメを駆動します。

これらの動きは瞬間的におこなわれますので、日送ツメの一端が日車を1日、曜送ツメの先端が、曜車を1日分、瞬間的に送ります。

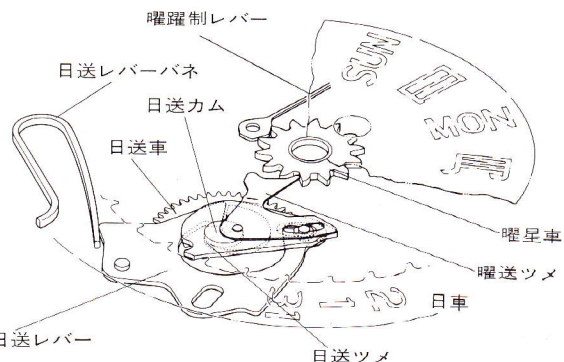


図-1

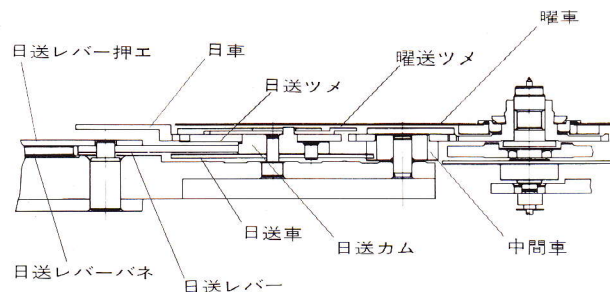


図-2

(日・曜送り前)

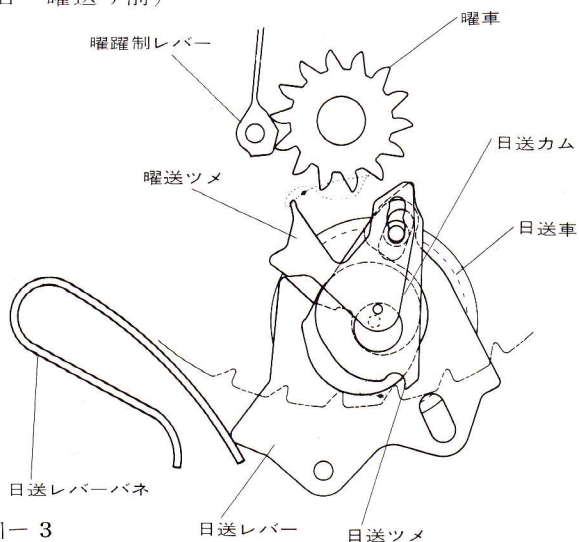


図-3

(日・曜送り後)

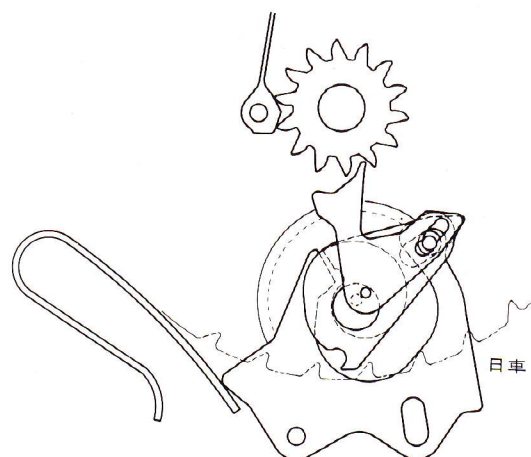
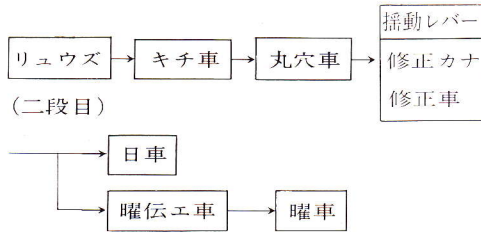


図-4

5206A カレンダー機構

6)-2

日付、曜日修正機構 (リュウズ二段目)



日修正

キチ車と丸穴車 (日ノ裏押エに組み込まれている) が、かみあっており、リュウズを右に回すと図-5のように揺動レバーについている修正車が、日車とかみあい日車を回転させます。

(リュウズによる日付け修正のときにもゼンマイが巻ける機構になっています。)

曜修正

リュウズを左に回すと揺動レバーについている修正車が、曜伝エ車とかみあい曜車を回転させます。

修正車のスリップ

図-4のように、日送ツメの先端が日車の歯の間にあるとき、および曜送ツメの先端が曜星車の歯の間にあるときは、日付けおよび、曜日を修正しても、修正車がスリップして、修正機構が働きません。

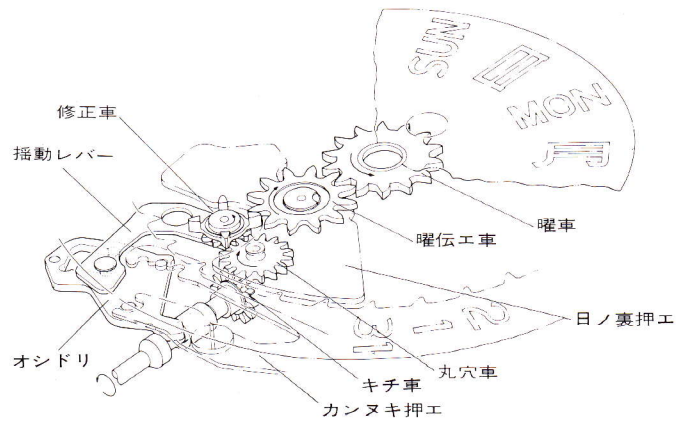


図-5

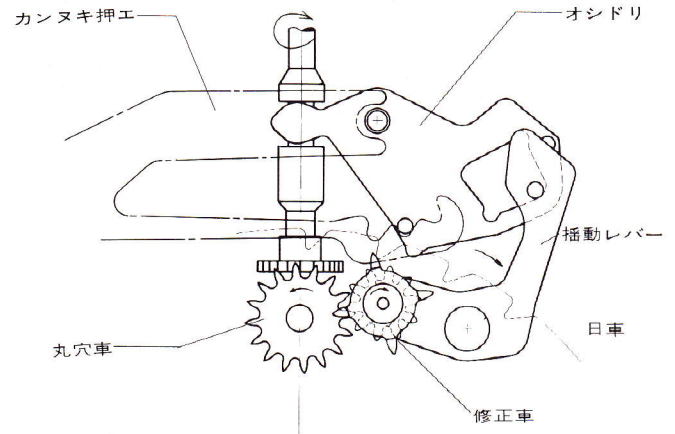


図-6

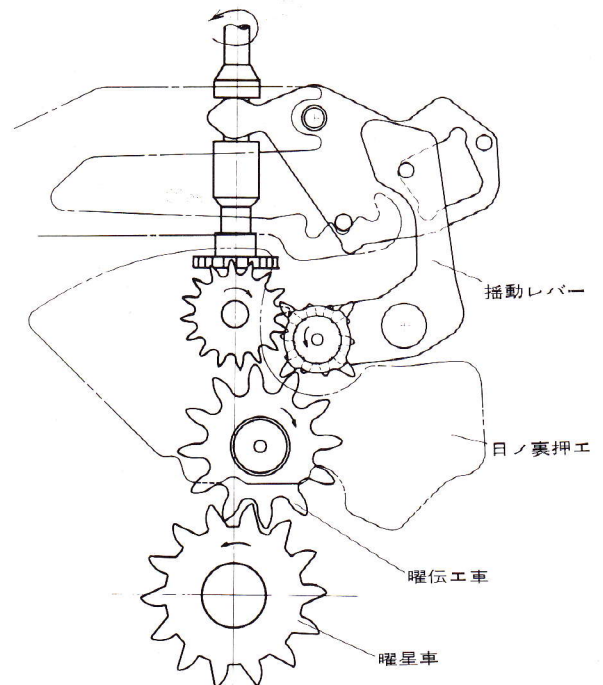
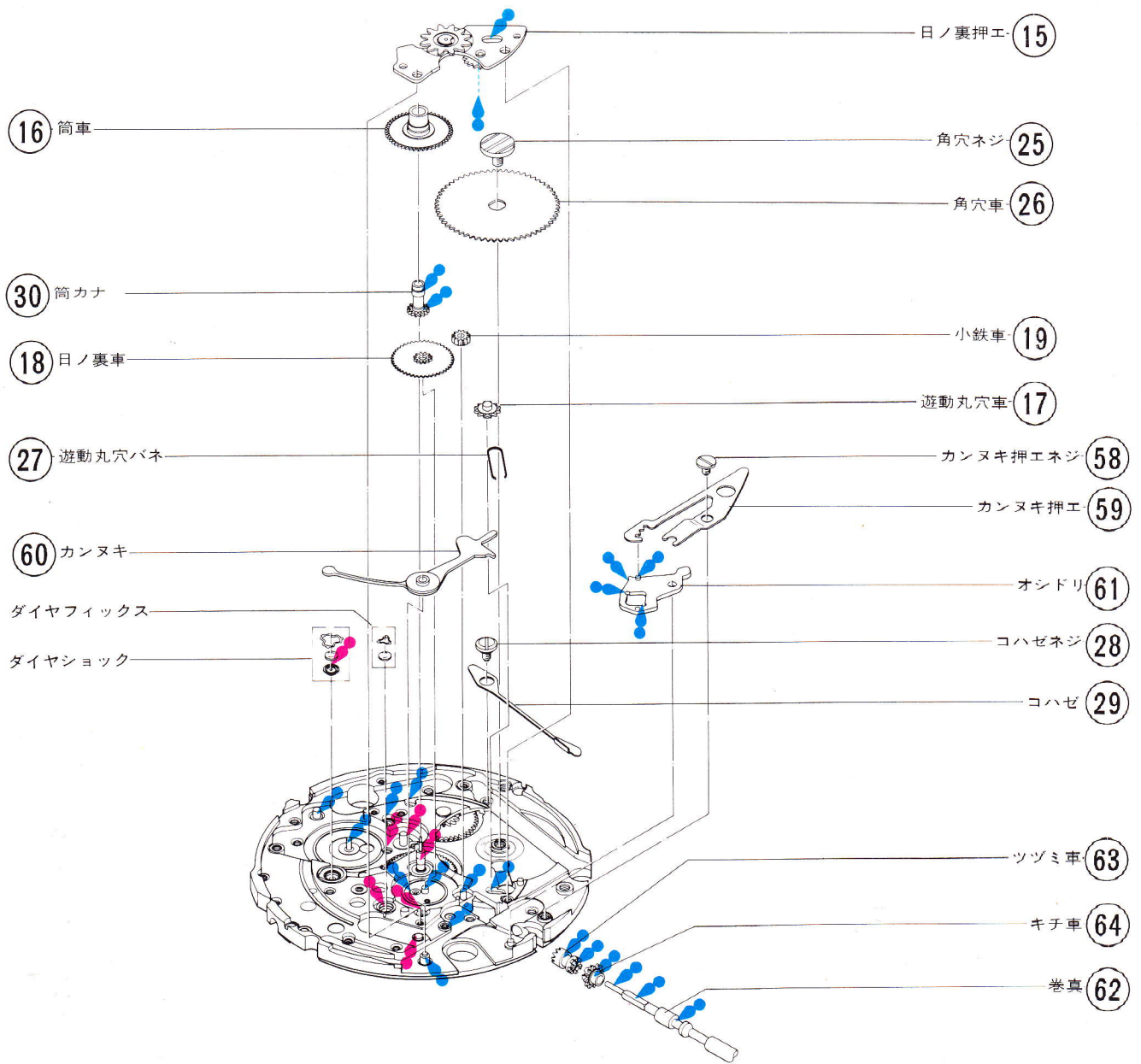


図-7



ゼンマイ巻き（リュウズ一段目）

キチ車と丸穴車（日ノ裏押エに組み込まれている）がかみあっている状態でリュウズを右に回すと、図のように遊動丸穴車を仲介して角穴車が回され、ゼンマイが巻けます。

リュウズを左に回すと、丸穴車と遊動丸穴車のかみあいがはずれます。

また通常の自動巻上げの場合も、丸穴車と遊動丸穴車のかみあいがはずれます。

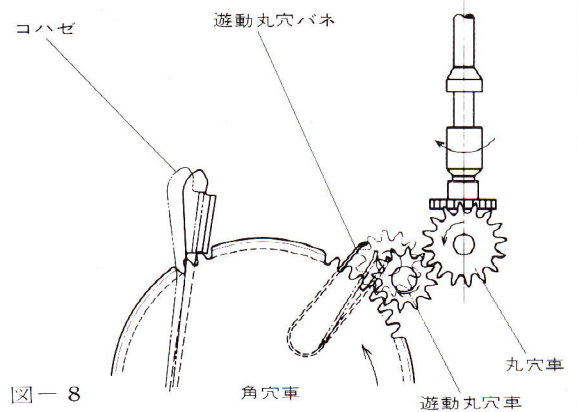
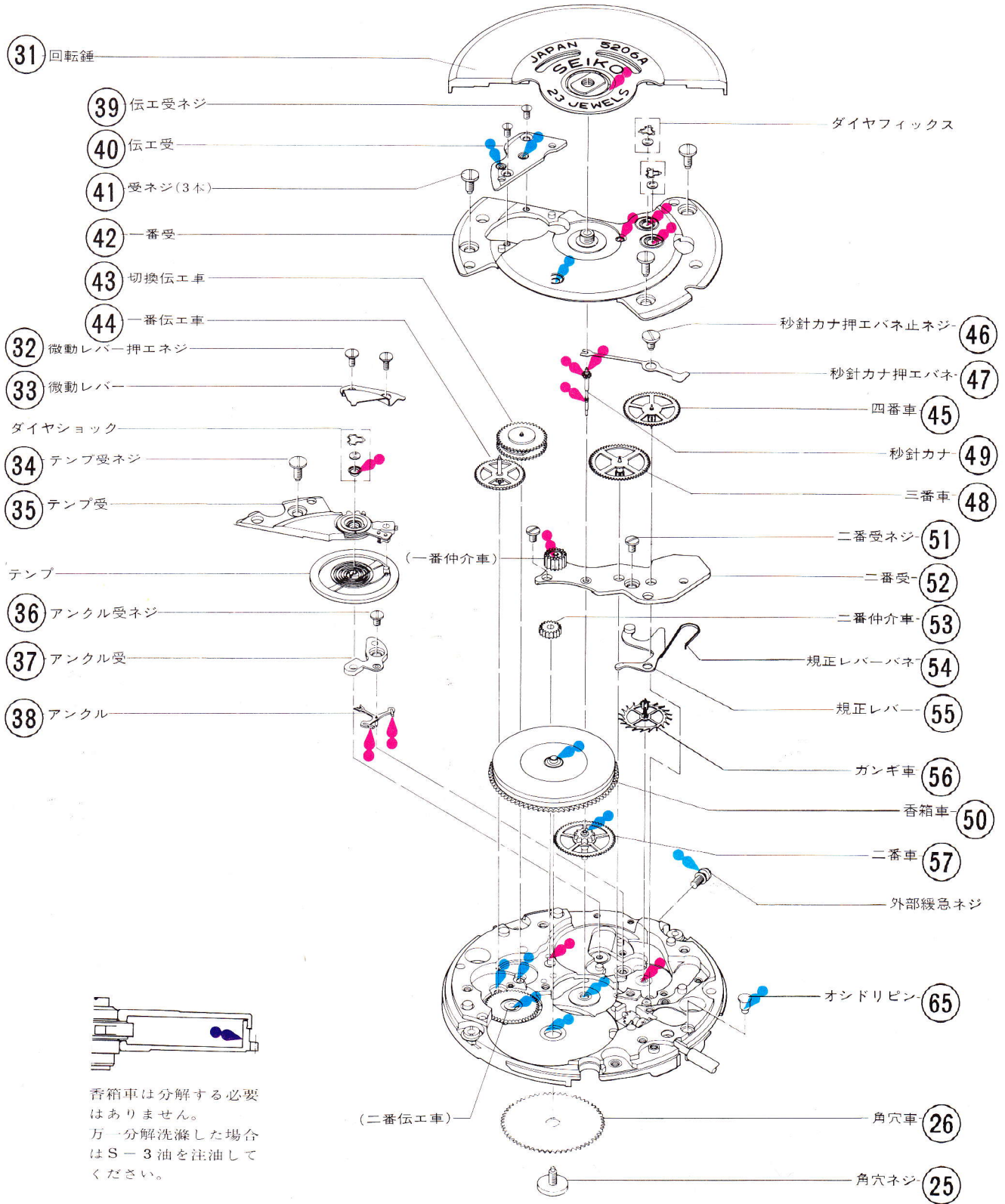


図-8

5206A 自動巻機構、表輪列



輪列断面

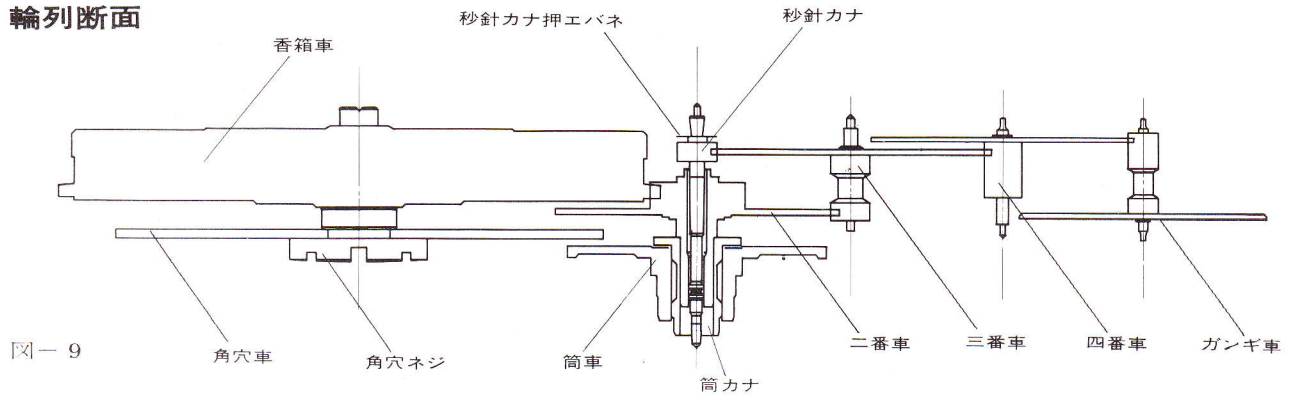


図-9

分解時の注意

1) ゼンマイ戻し

ゼンマイを戻すときは、伝エ受をはずして、切換伝エ車と一番伝エ車はずし、リュウズを押えながら、静かにピンセットで図の矢印の方向にコハゼを動かしますと、ゼンマイがほどけます。

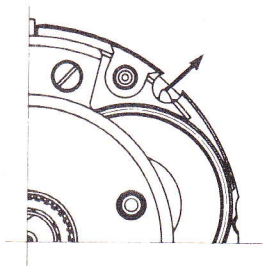


図-10

組立時の注意(1)

注油
二番伝エ車

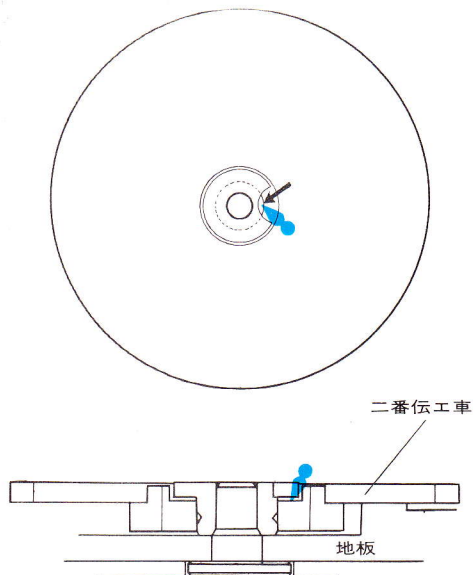


図-11

組立時の注意(2)

秒針カナ押エバネの組込みは、12図左のように横から行ないます。(矢印方向から組込む)

12図右のように、秒針カナの上方から組込みますと、秒針カナ押エバネがホゾ部にあたり、正しく取りつけられません。

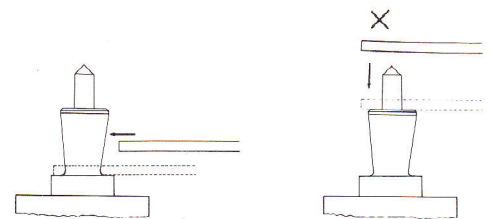


図-12

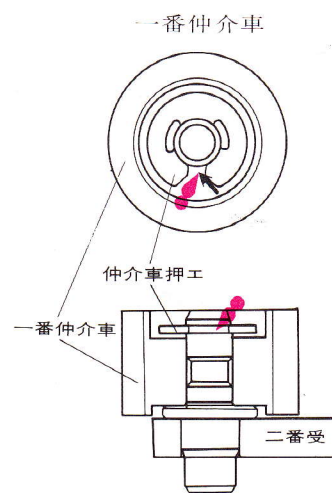


図-13

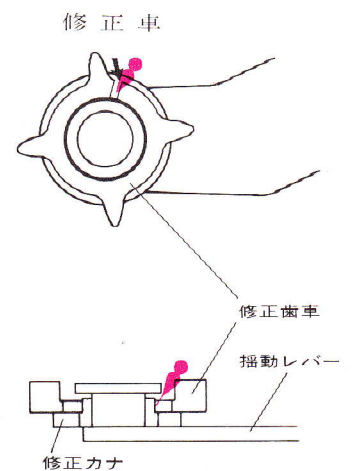


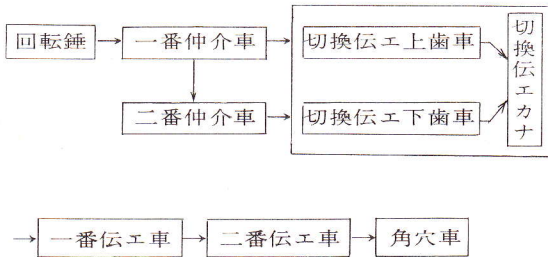
図-14

図の矢印の個所に注油し、3~4回車を回転させ、油が軸にゆきわたるようにしてください。

5206A 自動巻、秒針規正、外部緩急装置

8) 自動巻機構

自動巻機構は回転錘が左右どちらの方向に回転しても、切換伝エ車の働きによって一定方向の回転となり、つねにゼンマイを巻上げます。(図-15)



9) 秒針規正装置

リュウズを3段目に引き出し、針まわし状態にすると、規正レバー先端のピンがテンワを押えて、作動を停止します。(図-16)

10) 外部緩急装置

外部緩急装置は、ケースを開かずに時間調整ができる装置です。

ケースの緩急穴ネジをはずし、外部緩急ネジを右に回すと微動レバーが動き緩急針を一方方向に回し、歩度を遅らせませす。また左に回すと微動レバーを十方向に回し歩度は進みとなります。(図-17)

(注意)

外部緩急装置で時間調整した後は、外部緩急ネジを少し戻し(ネジの遊び分だけ)しておいてください。

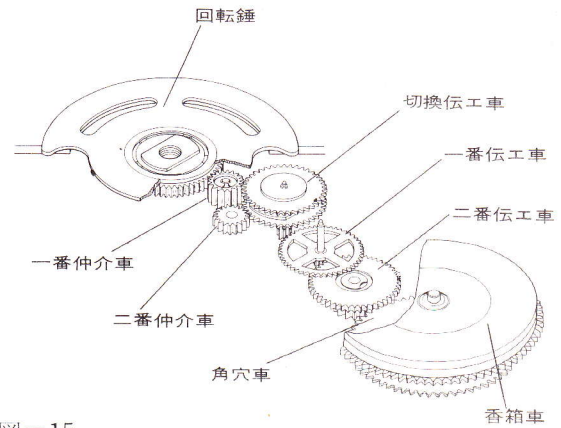


図-15

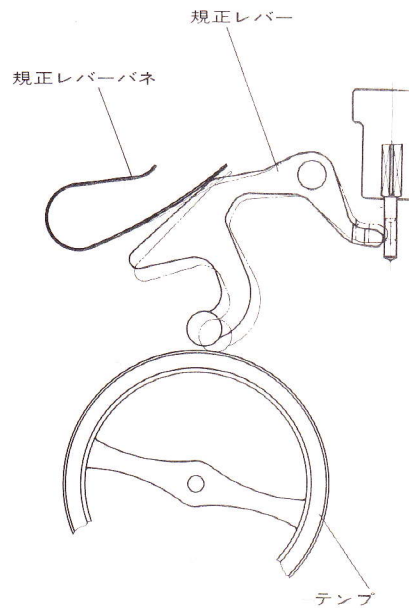


図-16

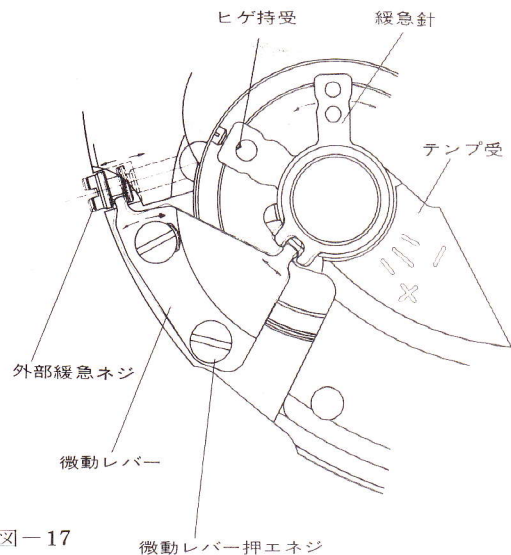


図-17